

## 「第 16 回アジア地域の巨大都市における安全性向上のための新技術に関する国際シンポジウム(USMCA2017)」および「アジア都市防災会議(4ACUDR)」が開催されました(2017/11/26-28)

テーマ：世界防災フォーラム

場所：災害科学国際研究所／仙台国際センター

2017年11月26日から28日にかけて、「第16回アジア地域の巨大都市における安全性向上のための新技術に関する国際シンポジウム(USMCA2017)」(東北大学災害科学国際研究所・東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター共催)と「第4回アジア都市防災会議(4ACUDR)」(東北大学災害科学国際研究所・地域安全学会共催)が開催されました。両国際会議は災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門の村尾修教授がオーガナイザーを務め、世界防災フォーラムのサブイベントとして開かれ、18カ国から160名ほど(登録者、同伴者、世界防災フォーラムからの自由参加者)の参加がありました。

11月26日には、仙台国際センターで行われた防災推進国民大会および世界防災フォーラムの開会式の後、参加者は災害科学国際研究所に移動し、研究所の常設展示を鑑賞しつつ、同国際会議用に設置された可搬型地震動シミュレーター(地震ザブトン)を体験しました。そして3Dドキュメンタリー映画「大津波」を鑑賞した後、両国際会議のジョイント・オープニング・セレモニーを経て、セッションごとの研究発表会(USMCA55件/ACUDR35件)が行われ、活発な意見交換が繰り広げられました。災害科学国際研究所からは、USMCA20件、ACUDR2件の研究成果が発表されました。

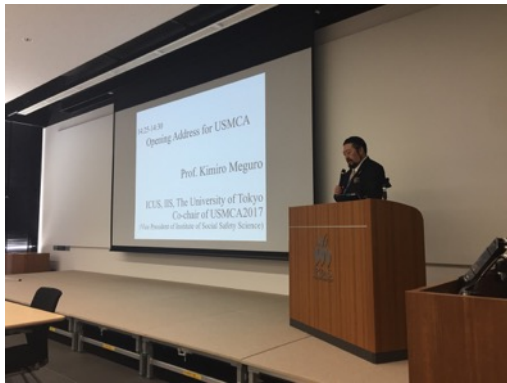
11月27日には、仙台国際センターにて2つのフォーラムセッションが開催されました。午前中のセッションはUSMCAの一環として行われた『『触れる地球』とグローバルリスク』であり、竹村真一教授(京都造形芸術大学)による基調講演の後、目黒公郎教授(東京大学)と村尾教授とともにグローバルリスク情報の共有と災害による被害軽減のための将来的な可能性について議論が展開されました。また同時にUSMCAの閉会セレモニーが開催され、26日の研究発表に基づくExcellent Young Researchers Awardの発表と授賞式も行われました。受賞者は合計4名であり、災害科学国際研究所の研究室からはLuis MOYA氏(災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野 研究員)と北村美和子氏(東北大学工学研究科(地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野) 博士課程)が受賞しました。

午後のセッションは、ACUDR「アジアにおけるリスクコミュニケーションの実情と課題」であり、李維森氏(台湾 国家災害防救科技中心主任秘書)、金倫希教授(韓国 東義大学校)、田中聡教授(常葉大学)による講演の後、立木茂雄教授(同志社大学)の進行のもと各国における今後のリスクコミュニケーションのあり方について議論が繰り広げました。

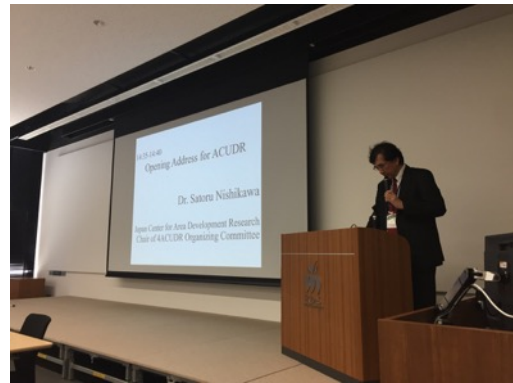
最終日となる28日は、参加者を対象にした東日本大震災復興スタディツアーが実施されました。ツアーでは、仙台市荒井地区の災害公営住宅、せんだい3.11メモリアル交流館、仙台東部道路の避難路、荒浜小学校と周辺のもニュメント、防潮堤、津波避難タワー、建設中の嵩上げ道路、閑上地区(名取市)、千年希望の丘(岩沼市)を訪れ、参加者は村尾教授の案内により東日本大震災の被害の様子とその後の復興状況について学ぶことができました。

文責：村尾修(地域・都市再生研究部門)

(次頁へつづく)



目黒公郎教授による USMCA 開会の辞



西川智氏による ACUDR 開会の辞



会場風景



可搬型地震動シミュレーターの実演会



IRIDeS での集合写真



セッションでの竹村真一教授による基調講演



津波避難ビル（仙台市）見学風景



東日本大震災スタディツアー集合写真